

会 議 記 録

| | |
|------|---|
| 会議名称 | 第4回社会教育委員の会議 |
| 日 時 | 令和3年1月27日(水) 午前10時08分～午後0時05分 |
| 場 所 | 中棟5階 議員会議室I (オンライン会議) |
| 出席者 | 委員/山口、小澤、朝枝、南、檜枝、赤池、天野、内山、笹井 区側/生涯学習担当部長、生涯学習推進課長、社会教育推進担当係長 (社会教育主事)、教育連携担当係長(社会教育センター社会教育主事) |
| 配付資料 | <p><配付資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学生名寄自然体験交流事業現地交流報告及び学習発表会の実施について 2 令和2年度第3回社会教育委員の会議 会議記録(案) 3 第16期杉並区社会教育委員の会議「まとめ」作成に向けて(骨子案) 4 (参考資料)第16期杉並区社会教育委員の会議 意見概要 <p><参考資料></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 すぎなみ教育報No.238 2 すぎなみ角川コレクション 令和3年1月～3月 3 年中行事だより 令和3年1月22日 4 家族で語ろう!昔の暮らしと今の暮らし 5 ごちゃまぜ(共生)社会をつくる(共催) 6 なみすく2020年冬号 7 令和元年度次世代育成基金活用事業実施報告書 8 とうきょうの地域教育No.141 |
| 会議次第 | <p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会議録の確認について 2 事業の進捗状況について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 検討課題について <ol style="list-style-type: none"> (1)今期のまとめについて (2)次回に向けて 2 その他 |

(意見要旨)

○議長 これより会議を始める。検討課題についての説明をいただきたい。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 委員の任期中に第16期杉並区社会教育委員の会議「まとめ」を作成するにあたり、今回はコロナ禍の状況と並行して歩んできたため、その取組を加味した提案にしている。仮テーマは「学びのまち杉並」。このフレーズは、「杉並区教育ビジョン2012」の中から抜粋した言葉だが、コロナ禍を経てこれからどうなっていくのか、これに伴って社会教育ではどのようなことをしていくのかということ掲げてはどうかとの提案である。

社会教育委員の会議の「まとめ」作成は平成29年以来なので、これ以降の流れを踏まえるまとめにするというのが一つ目。二つ目はコロナ禍の対応で、今後の社会教育推進の視点として参考になる部分があるということ。三つ目に新しい杉並区の基本構想の検討を進めており、教育委員会においても教育ビジョンの見直しで新たなものを策定するという検討が始まっているが、これより「まとめ」を出すことになるため、必要な意見を書き込み、ぜひ反映させたいということがある。「杉並区社会教育の歩みと到達点」のところでは、新型コロナウイルス感染症拡大前までの歩みをまとめる。現在の教育ビジョン策定時とこれからのそれとの大きな違いは、行政的に言えば「地域・学校・協働」などが社会教育のトピックスになっており、そこに関わる行政の動きができていて、社会教育にそれも含めたい。

生涯学習に関するデータとしては、区民意向調査で区民全体のおおよそ6割の人が社会参加活動に参加しているという実態が続いていて、4割の方が、まだ活動していない、活動の仕方が分からない、したくないという状況がある。6割の人たちを支えるためと4割の人たちにアプローチするため、社会教育の機会としてやってきたことを書き込んである。次に社会教育センターが科学教育も担うことになり「出前型、ネットワーク型」事業の試みが行われてきたことなどをまとめている。続けてコロナ禍で緊急事態宣言が出た頃の社会教育施設や社会教育関係団体の状況、学校のことをまとめている。最後に緊急事態宣言が解除され、徐々に社会教育の機会も開いていく状況があったことは触れた程度になり、まとめきれてない。ただ、社会教育委員の会議にオンラインを入れてきたので、各委員の意見をまとめて書き加えたいと思っている。コロナ禍の状況に対して、議長が別なところで話した内容が参考になったのだが、地域の特徴を捉えつつ、コロナ禍がどう地域に影響を及ぼしているのかまとめておくべきではないかと考えている。

本日、参考資料として1～47までとして、これまでの会議の中から拾い上げ意見をまとめてある。これをどこかに取り込んで、内容を豊かにし整理できればよいものになると思う。

○議長 ご意見はいかがか。

○委員 もくじにある「ポストコロナ」は、いつ来るのだろうか。未来が見通せない状況にあるので、それを前提に話を進めてしまうのはいかがか。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事） 未来志向でそうあって欲しいと

いう感覚で表現に使用している。

- 委員 よくまとまっているが、緊急事態宣言が解除されてまた第二次緊急事態宣言が出て、時系列で事例をリンクして書いたほうが、読みやすくなる。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） 確かにそうだが、1期については期間が見えてきているが、2期以降については曖昧で委員から指摘があったプロセスが分かるような方法にしていきたい。どこまでを区切って、どう表現するかというあたりは、もし、いいアイデアがあるなら教えていただきたい。
- 議長 社会教育・生涯学習行政の全体像というのであれば、例えば公民館や図書館などの施設の整備や運用の仕方、社会教育関係団体や社会教育の事業、センターがやっている事業の話、区民の社会教育、生涯学習の活動に対応する社会教育専門職員の話などと、ある程度類型化して整理をするのが一般的で、今の記述ではよく分からない。杉並の社会教育事業で大人塾や科学教育の事業が特徴的なので、区民の社会教育に広げた深まりにも触れていただきたい。区民の様々な社会教育に関する地域づくりに役立っている活動も取り上げるといいと思う。
- 委員 私が活動している地域区民センター協議会は社会教育に重なる部分があると思っている。また、地域で対象別に設置してきた施設を統合して「コミュニティふらっと」という施設にして、全世代型を超えて交流する場に変えていこうとしていることがある。公民館とは違うが地域密着の学びの場になるポテンシャルを持っていて、そういう視点で言えば社会教育を区長部局や一般行政に近づけて、もっと影響力を及ぼしていったらいいのではないかと。もう一つ、在宅ワーク化で生じた自宅の職場化により、働くことと暮らしが混在化しているとあるが、在宅ワークではない区役所がその点では最も遅れた状態ではないかと思う。
- 委員 学校教育にふれている部分について、臨時休業から学校が再開になり浮き出た課題がある中で、大きく発想を転換する価値があるように思う。学校や社会の中で何かを始めようとするときに、みんなで集まることが当然だった。コロナ禍で集まれない状況でできることをどこの学校も考えて実現し、集まらないほうがいいこともたくさん見つかった。放送委員会の児童たちが、これまでは体育館に全員が集まって発表していたが、活動中の動画を撮って各教室でオンラインの児童集会を行い、意見などを募集した。できることを考えて行うという姿勢が小学生児童もできるようになってきた。最適な納得解をみんなで見つけ、学び考える習慣が身についた時期だった。
- 委員 地元小学校の運動会では密を避けるため、学年ごとに時間帯を分けて開催したので、父兄も必死に場所取りせずに済んだ。中学校では生徒のみで学年も分けて体育祭を行い、それをプロ並みの保護者が撮影してオンラインで流した。そうしたら、とてもよく分かって好評だったという事例がある。コロナは今までやれなかったことをゼロベースで考えるいい機会だったと私は思っている。
- 委員 全ての方たちがオンラインに対応できる現状ではないが、取りあえずやってみて楽しみながら次につなげられる世代も出てよかった。
- 委員 民意で未就学児や保護者に支援をしようと活動しコロナ禍で子ど

もたちのために何ができるかとメールやオンラインでのやり取りや予防をしながら集まっていた。公教育と公的な場所、杉並区の行政とタッグが組みにくく、みんなが使える児童館や区民センターにWi-Fi機能がないので個人的に動くしかなかった。コロナだからこそ考えられる手厚いシステムを打っていけるといい。

○委員 今の意見に賛同する。それと新しくなった中央図書館はWi-Fi機能があり、図書館を複合にする他の計画でもWi-Fi機能を付ける模様だ。

○副議長 リアルで会えなければオンラインをうまく使うことだと思う。いずれ自分の分身ロボットなどが代わりに買物に行くという世の中になると思う。老後は楽になるかもしれないが未来のコミュニケーションはどうなるのか。やはり「人と人とのリアルな関係づくり」が大事だということを議論していかなきゃいけない。そしてコロナ禍が終息した時に人の移動や行動も変容していくのではないか。放送委員の子どもの話など状況に合わせて多様な考え方ができるようになったことがすばらしく、その子どもたちがつくっていく未来を想像したら明るい気分になった。

○委員 未就学児などへの支援についての話は、アプローチの必要性が認識できたことを記載しておくべきではないか。それと「希望の心理学」という本に過去を見つめることが未来を切り開くことに直接的につながるといふ記述がある。現状においてどういう問題があったかを唱えるかが大事なことだ。

○委員 今の話に共感する。社会教育が培ってきた人々とのやり取りは未来に進んでいく上でプロセスも重要だ。人間の意識や行動に影響を与えるものは、空間や時間にも影響を与えると思う。自分の意図していることが相手に全部伝わるのか。オンラインだとそれも限界があるのではないか。外国に行くことは非日常空間で、体験やコミュニケーションにより自分の成長や文化的な価値をつくる上で大切なことだが、日常空間や時間帯の延長になり本当のコミュニケーションができるのか疑問だ。それに、全てがフェイス・トゥ・フェイスに戻れない前提で考える必要がある。

○委員 「これからの社会教育」の中に承認欲求という言葉が入っているが、例えば「キャリア自律」や「自律を支える」といった言葉にしたほうがいいのではないか。

○議長 ほかに思ったこと、気がついたことの発言はあるか。

○委員 学校教育でオンライン形が進んでいくと、自己決定とか自己責任がどんどん重くなっていくのではないかと思う。家で子どもたちがどのように学習したか我々は把握できない。最終的に本人が決定し、責任を取らなければならない。

○委員 自己決定とか自己責任が今後重要になってくると思うが、個人を追い込む怖い言葉だ。

○議長 ほかに意見や質問はあるか。

○副議長 人間は五感で生きていて、必ずしもオンラインが全てとは思っていない。リアルな触覚、嗅覚または味覚も含めて人と人とのコミュニケーションが必要だ。ただ、コロナ禍においてはテクノロジーに頼らなければならない。よく誤解されるのがオンライン派は「それだけで悪い人」に置き換えられることがある。そういうことはやめ、いいものをどんどん取り入れて、お互いに気持ちよくうまく取り入れて、未来をポジティブに希望

が満ちあふれる形に持っていく。そのためには様々な努力が必要だろうがみんなで明るく考えていけたらいい。

○議長　そろそろ終了時間になる。質問などがなければ今日の議論はこの辺にしたい。

○社会教育推進担当係長（社会教育主事）では、最後に今回の意見を踏まえたこの第16期杉並区社会教育委員の会議「まとめ」の骨子についてバージョンアップを図り、大きな柱立てについての意見をいただきつつ議長と調整しながら原案作りを進めていく。以上である。

○議長　これで閉会にする。積極的なご意見を頂きありがとうございました。